



異次元を思わせる不思議な空間にたたずむネコ。
一枚のネコの写真と、一点の抽象絵画のようなイラスト原稿から、
想像力と印刷技術で不思議な世界へ仕立てあげた。

ネコフュージョン

Cat Fusion

Creator

仲條正義 Masayoshi Nakajo

グラフィックデザイナー

1933年東京生まれ。

1956年東京藝術大学美術学部図案科を卒業後、
資生堂宣伝部、デスカを経て、1961年に仲條デザイン事務所設立。

主な仕事に資生堂『花椿』誌の40年以上にわたる

アートディレクションをはじめ、ザ・ギンザ/タクティクスデザインの

アートディレクションとデザイン、資生堂パーラーのパッケージデザイン、

東京銀座資生堂ビルのロゴタイプ及びサイン計画、

松屋銀座、スパイラル、東京都現代美術館、

細見美術館のCI計画、『暮しの手帖』表紙イラスト等がある。

Printing Director

田中一也 Kazuya Tanaka

Photographer

中村成一 Seichi Nakamura

ネコの画像を背景に埋め込む

どちらかというと、ポスターでは写真はあまり使いません。いわゆるグラフィックの作品がほとんどです。でも、グラフィックトライアルとは凸版印刷のもつ紙に定着するノウハウと技術がグラフィックデザインとコラボレーションするという企画だと伺いました。ならば、なるべく難題を吹っ掛けたほうが面白いことになるだろうと考えて何をするかテーマを決めました。

何をテーマにしたのですか？

「ポケ足の抜き合わせ」です。写真を修整するとか、背景に別の画像をはめ込んで合成するというようなことは、昔から我々もいろいろやってきた技術です。とは言え、Aの画像とBの画像を重ね合わせて一体化して作品にする場合、その継ぎ目をどう処理するかが難しい。印刷の方々がとても苦労する技術のひとつです。今回は凸版の技術力をどうやって引き出すかも僕の仕事のひとつだと思いましたので、絶対に苦労するような面倒くさい画像で、ポケ足の抜き合わせをやっていたことにしました。

それでネコの写真を？

そうです。5年ほど前に中村成一さんが撮影してくれた写真を使うことにしました。猫の毛ですから、ただでさえ輪郭ははっきりしていません。しかも逆光

なので形が飛んでしまっているところがたくさんある、輪郭がボケボケになっている写真です。このネコの写真を背景に埋め込んでもらうことにしました。難しいだろうな、断られるかも知れないと思ったのですが。

仲條さんのネコですか？

アビシニアンとシンガプーラの混じっている野性的な男の子で、名前は小吉(こきち)です。8年前にうちにやってきた時には手の中に収まるほど小さくて、撮影したときは3歳の頃でした。今は僕と小吉の二人で、仲良く付き合いつつ暮らしています。

背景がまた不思議な画ですね。

ちょっと面白いでしょう？うっかり濡らしてしまったフィルムのプリントを重ねておいたらくっついて、剥がしてみたら想像もできないような面白いものができていました。偶然というものは不思議な新しい世界を展開してくれることがありますね。実は以前、展覧会でも同じ手法で作った原稿を使って抜き合わせで作品を制作したこともありましたが、直線的なもの重ね合わせただけなので今回はわけが違います。背景をどう作り込んでいただけるかも楽しみでした。

この2つの素材から5点の作品に？

そうです。ネコと背景、二つの画像だけで状況が違う5つのバリエーションに挑戦していただきました。印刷でどんなものが出てくるのか、挑戦状を突きつけたという感じです。テーマが“Fusion”だし、混沌のようなイメージもあるから丁度いいと思いました。

デザインと印刷の「闘い」を経て

正直なところを言えば、あの2枚の画像からどれだけバリエーションを見せたいだけののかわかりませんでした。しかも作品を5点つくるとなると、単純なバリエーションではきつと僕も印刷側も満足できないだろうという気がしていました。内心では「どうするつもりだろう」と思っていましたね。

どのように進んでいったのですか？

最初に5種類のラフをお渡ししました。「この素材でうまく新しい世界を作ってください、それがお宅のお仕事ですよ」と言って。おそらく相当な苦労をさせていただと思いますが、その絵からイメージを広げて工夫したものがたくさん出てきましたよ。



仲條正義 Masayoshi Nakajo

どういったものが？ 感想は？

それはもう、僕が想像できないものいろいろと。紙地を背景の色に見立ててクラフト紙のような用紙を使ったもの、銀の紙に印刷したもの、白い紙も何種類もありました。もちろんまだ1回目のトライアルでしたから、ネコと背景の馴染み具合はまだ十分とは言えませんが、イメージを広げる、力強さを感じさせてくれました。

PDもかなり手探りだったようです。

そうですね。「抜き合わせ」以外にはほとんど具体的な事は言いませんでしたから。だいたい仕事でも僕はとやかく言わないたちなんです。「もう少しシアンを抑えたほうが良いかな」くらいまでで、それ以上は踏み込まない。印刷のことを一番ご存じなのは現場の人たちですし、そもそも細々と注文をつけてもそんなに巧いかないものです。

ある時点からは印刷側に委ねた？

そんな感じです。皆さん、大変だったと思いますよ。僕がどの程度期待しているかもよくわからなかったでしょうし、刷り上がりを見ても僕はほとんど「いいね」くらいしか言わないのだから。次のトライアルをどうするか、さぞかし困ったと思います。でも、彼らは言葉以上のものを汲み取ってくれました。まさに付度(そんたく)ですよね。「大満足です。これでいいですよ」と言っても、私が何

を思っているかを想像してはさらにノフィステイケートしてくれました。ネコと背景の馴染みもどんどん良くなって、進化していきました。

「○○のネコ」というタイトルは？

会話の中で出てきた言葉からイメージを膨らませてくれたんです。「溶岩のような色だ」という言葉から「火の国のネコ」、「鏡のような紙だね」と言ったことから「鏡の国のネコ」というような感じで。僕自身はあまりロマンチックに物事を考えるほうではないですから、「赤とネコ」「フォイルと猫」でも良かったのですが、「世界観を共有するために」と提案していただき「それもいいな」と使わせてもらいました。

まさにコラボレーションですね。

いやいや、むしろ「闘い」と言ったほうが良いかな。まさに“Fusion”であり挑戦でありコラボレーションが成されたのだという感じでした。まあ、僕は手探りで判断するだけの殿様のようなもので、実際に戦っているのはPDの田中さんたちでしたがね。

イメージを膨らませた印刷の力

元来、デザイナーというのは表現すると言っても半分しかできません。イメージをどうやって定着するかと言えば、写真やイラストを使ったり、色でいろいろ加工したりするわけです。撮影ならカメラ

マンやモデルさん、スタイリストも関わりますし、印刷物なら製版の人や刷る人など、たくさんの人と一緒に仕事をします。いつも誰かと一緒にやっていて、デザイナーは一人でやるということはありません。今回だって僕がやったのは半分くらい、あとは田中さんたちや現場の人たちですよ。

トライアル、いかがでしたか？

「闘いだ」と難題をぶつけ、本当によく応えていただいたと思います。色と背景との馴染みも、紙と白とのバランスも、箔の中に溶け込む猫も、僕自身がデザインでイメージした以上のものになりました。銀紙に白でトーンを作り込んだり、箔で階調をつけたりと、思いもよらない技術でカバーしていただいて、とても気に入った作品ができました。僕が頭で描いた不思議な世界を、僕が大切にしているネコが歩き回っているという、夢のような絵ができて満足しています。

最後に、来場者に一言。

トライアルに参加して、数カ月にわたって貴重な体験ができました。その面白さがこの作品を通して皆さんに伝わってくれたら嬉しいです。



Point of Trial

トライアルのポイント

ひと組のネコの写真と背景イラストで5点の作品を作成した。まず、基本画像を作り、仲條氏のラフを元に印刷・加飾表現を検討。さらに5つの世界観を設定して表現設計を行った。

基本となるネコ画像

切り抜いたネコを拡大して背景に配置しても違和感がないように輪郭部分を補正。さらに目の力強さ、ヒゲ、逆光による透け感などを作り込んだ。



世界観と設計のポイント

火の国：赤い炎、白く眩しい光の中で

すべてを吸い込むような黒いネコ

背景：プロセスM・Y+特赤+特オレンジで鮮やかな赤の表現。

ネコ：4色モノトーン+特グレーのシメ版で黒のボリュームと立体感を強調。
用紙：真珠のような光沢を持ち白色度の高い紙で、白を際立たせた。



鏡の国：キラキラと輝く鏡面の世界に

見え隠れするモノトーンのネコ

背景：キャストコート紙にコールドフォイル+特銀で鏡面感を創出。

ネコ：ネガ版のコールドフォイルに墨+グレーのWトーンとし、シャドウ部は黒のしまりを、ライト部はフォイルの輝きを強調した。



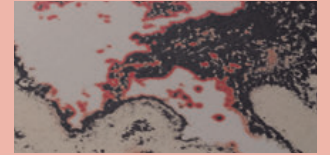
時間の国：バサバサの古地図に現われた

時間旅行をするネコ

背景：クラフト紙を古紙に見立て、部分的に彩色して地図イメージを作った。

ネコ：オペークホワイトの下地で再現性を高め、ネコと地図のシャドウバランス

を揃えて溶け込んだイメージに。



闇の国：夜のような曖昧な闇の中、

静かに微かな燐光を放つネコ

ネコ：ネガ版のネコのライト寄りにYを増やして燐光感を強調。

背景：ネコの墨版と背景を黒に近い特群青に置き換え、深みのある闇を表現。

用紙：アルミ蒸着紙でネコをより光らせ、闇の表情を豊かにした。



密林の国：湿潤で緑深いジャングルで、

強い陽を浴びる赤いネコ

ネコ：ライト寄りにYを増やして熱い陽光のイメージを表現。

背景：プロセスC・Y+特濃緑+特明緑+パールメジウムでじっとりした濃度感をより強く再現。

用紙：葉や幹の肌合い感のために白色度の高いエンボス紙を採用した。





1 火の国のネコ
 印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷[7]
 スクリーン——AM 175線
 用紙——ペルレーラ・ラスター スノーホワイト 135Kg

2 鏡の国のネコ
 印刷方式[色数]——コールドフォイル[1]+オフセット印刷[3]
 スクリーン——AM80線、AM175線
 用紙——ミラーコート・ゴールド 135Kg



2



3



4



5

5 密林の国のネコ
 印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷[7]
 スクリーン——AM 175線
 用紙——ハンマートーンGA プラチナホワイト 130Kg

3 時間の国のネコ
 印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷[9]
 スクリーン——AM 175線
 用紙——ファーストヴィンテージ カシミア 135Kg

4 闇の国のネコ
 印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷[6]
 スクリーン——AM 175線
 用紙——オフメタルN銀 165Kg